



年 組 名前

道新ワークシート

クレインズ 輝き永遠

日本製紙クレインズの歩みと主な戦績

1949年	十條製紙アイスホッケー部として創部
74年	日本リーグに加盟。リーグ初戦は王子に1-13で大敗
79年	日本リーグで王子に3-2で初勝利。対王子16連敗でストップ
89年	日本リーグで初のAクラスとなる3位
93年	日本製紙クレインズに改名
2004年	アジアリーグ初優勝(日本製紙4-1日光)
06年	全日本選手権初優勝(日本製紙6-4王子)
07年	全日本選手権2連覇(日本製紙4-1西武)、アジアリーグ優勝(日本製紙6-5西武)で初の2冠達成
09年	アジアリーグ優勝(日本製紙3-2西武)
10年	全日本選手権優勝(日本製紙5-1王子)
11年	全日本選手権優勝(日本製紙6-2東北)
12年	全日本選手権3連覇達成(日本製紙3-1王子)
13年	全日本選手権優勝(日本製紙5-4王子)
14年	アジアリーグ優勝(日本製紙4-3王子)。初めて本拠地・釧路で優勝を決める(3月29日) 全日本選手権との2度目の2冠を祝い、釧路市内で初の優勝パレード(4月6日)
15年	全日本選手権優勝(日本製紙6-4王子)
18年	廃部を発表(12月19日)
19年	プレーオフ決勝でサハリンに敗退。最後の公式戦となった(3月14日)

31日廃部

全日本選手権を7回、アジアリーグを4回制したアイスホッケーの日本製紙クレインズ(釧路市)が31日で廃部となる。1949年に釧路に生まれ、70年にわたる歴史を刻んだ。弱小時代に辛酸をなめ続け、「氷都・釧路」のシンボルとして強豪に育ったチームの歩みを振り返る。(長堀肇方、光嶋るい)

十條製紙アイスホッケー部として49年に創部。25年後の74年、念願の日本リーグに加盟した。「リーグの

勝ち、王子戦を16連敗でよ

70年 苦難越え強豪に

日本リーグ初戦大敗▽万年5位▽アジア・全日本2冠…

お荷物にならないように」。リーグ加盟を後押ししてくれた王子幹部の言葉だ。リーグでは苦難の日々が続いた。初戦は王子に1-13で大敗、その後も歯が立たなかった。日本リーグで王子に初めて勝ったのは1999年。3-2でリーグ加盟6年目。3-2で王子に初めて勝ったのは1999年。3-2で

うやく止めた。6チームで争う日本リーグで成績が長く低迷し、「万年5位」の名前がつきまとうようになった。89年に初のAクラスとなる3位。翌シーズンも3位につけ、ようやく躍進した。会社の合併で93年、日本製紙クレインズとして生まれ変わり、その後徐々に力を付けた。2004年にアジアリーグを制し、悲願のタイトルを手にし、06年に全日本選手権を初制覇。全日本選手権とアジアリーグ2冠も2度果たし、チームは強豪に育った。

昨年12月の廃部発表のショックを乗り越え、プレーオフ(PO)進出を果たし、決勝にたどりついたラストシーズン。最後の本拠地公式戦となった3月10日のPO決勝サハリン戦は3千人を超える観客の大歓声が日本製紙アイスアリーナに響いた。

2019年3月28日朝刊釧路・根室版(記事は再編集しています)

①かつては「弱小」だった日本製紙クレインズは、苦難を乗り越えどんなチームになったのか、本文中の漢字2文字で表しましょう。

②見出しの「クレインズ輝き永遠」という表現から、筆者が強調したかったと考えられることを書きましょう。